

平成 22 年度 事業報告書

養護老人ホーム 大慈吉祥園

1. 《法人ビジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. 《基本方針》

入所者が施設の中で人間として尊厳を保ち、健やかで快適かつ生きがいのある生活が営める様に努めていきます。その為に、入所者一人ひとりに合わせた介護サービス計画を作成し、施設での生活を支援していきます。

3. 《ケア部門》

●22 年度重点目標

①ゲストの自主性を引き出せる環境を作る。

→この一年を振り返ると職員の退職、育児休暇、体調不良による休職などで慌しい年であったように思われる。その為、ゲストにはいろんな面で不自由をお掛けしたことも多かったかと思われる。3/31 現在要介護 45 名、要支援 11 名、非該当 14 名のゲストが利用されている。精神面・体力面ではかなりの個人差があり、ADL レベルの状態を観察・把握が重要になってきている。70 名のゲストと一緒に生活される中で、個別対応することは難しいことや制限されることも多いと思われるが、できる限りゲストの声を反映できるような環境は出来つつあると思われる。4 月より入浴委員会、排泄委員会、給食委員会、レク係を中心に活動してきた。又、吉祥園では色々な行事、催しがあるがゲストにもお手伝い頂いたり、出し物に参加頂く事も多かった。全体的にどの行事も盛大に行えたと思われる。長い時間をかけて練習に励んだが、ゲストから感謝の言葉を頂き、次への励みにもなった。来期はゲストとレクリエーションやクラブを通してふれあう時間、コミュニケーションを重視しゲストの声や思いを拾い上げていきたい。

②職員の自主性を発揮できる為の組織作り。

A) 入浴委員会発足・・・新しい入浴システムの完成。

→ゲストの ADL に合わせグループ分けした。その為、時間いっぱい、ゆっくり入浴して頂けるようになり、皮膚の状態観察やコミュニケーションも取れるようになった。事故のリスクの高いゲストには見守り強化でき、全介助のゲストにはマンツーマンで入浴して頂けるようにもなった。又、入浴剤使用や季節毎のお風呂の行事を楽しんで頂くこともでき、ゲストからは気持ち良かったとの声を頂けた。

B) 排泄委員会発足・・・臭い 0、清潔な排泄環境を作る。

自然排便、下剤 0 の取り組みの完成。

→「臭い 0 運動」を実施。トイレ・洗面所の清潔を維持する為、ゴミ箱撤去し、毎朝次亜塩素酸で消毒を行っている。オムツなど余分な在庫を置かないようにオムツ発注を月 2 回に分け、カーテンを付ける事によりすっきりさせた。又、オムツ 0 に取り組む。日中はパットを外し個別の排泄介助を行うようになった。モデルケースで排泄の自立を目指す方も出て来ている。又、給食委員はゲストの体調、食事量、嚥下状態などに合わせてその都度、対応できた。

③生活リハビリ、介護予防を意識したレクリエーション活動の充実。

→8月より退職や休職で職員の配置が難しくなり、業務をこなすので精一杯であった。職員が行うクラブやレクリエーションなど実施ができないこと多々あり、ゲストの意欲を欠いたこともあった。又、ゲストの重度化により、事故のリスクが高くなり、処遇会議を再開させることになった。後半より個別ケアを重視、レクリエーション、食事前の嚥下体操やおやつ前の体操など始めることができて、多くのゲストに参加頂いている。来期は食事、排泄、水分、運動（レク含め）などを重視しゲストのADL、QOLのアップを目指すと同時に自立へと繋げていきたい。

4. 《家族との交流・連絡》

“入居者・家族との協力”

①入居者・家族との関係作り

- A) 状態の変化・変化が予測される場合は随時、ご家族に報告・連絡・相談を行う。
- B) 家族と協力して、処遇の向上を図る。
- C) 万が一の時は、最期をどうされたいかをゲスト・ご家族の意向を十分に話しあう。
- D) ゲストの希望等園が必要と判断した場合、ご家族に電話連絡し近況報告する。
- E) 緊急連絡先不明の方については、各区福祉を通じて親族等の調査を継続する。

②ケアカンファレンス会議（第2・4木曜日）

⇒ ご家族に同席して頂き、書面・口頭にて近況報告行う。

③状態に変化があれば、速やかに報告行う。

④新入所時、1週間は毎日状態観察行い日誌に計上する。

→6ヶ月毎のケアカンファレンス行い、ご家族にはゲストの生活状況、ゲストの心身の変化など報告行っている。又、ゲストの思いや希望、体調を大きく崩された場合はどうされたいか等、おおまかには話し合いもできている。体調の変化があった場合には直ぐご家族、各区福祉にも連絡、報告を行い対応はできた。が、看取りの域に入られているゲストへの対応の仕方、及び延命されるかどうか判断出来きていないゲストとご家族等への急変時の対応の仕方が、職員間でしっかり共有出来ていなかったこともあり、対応にズレが生じることもあった。ご家族・医務・栄養科・支援員間で連携を強化し相談、指示、対応等、漏れがないように徹底させることが重要と考える。

⑤職員の質向上

- A) 重度化に対応していくために、医務、栄養科等、関連機関、ご家族様との緊密な連携の下、ゲストの尊厳を尊重した責任ある介護に取り組み、職員一人ひとりが同じレベルの対応ができる様にスキルアップを目指す。
- B) 研修等に参加し、知識等の向上を図る。
- C) 研修で学んだ事柄を共有化する。

→比較的若く経験年数の少ない職員が多い中、新人職員も3名入社する。中堅職員も指導に入り、現在重度の方の介護に関しては見守り・指導が必要ではあるも、ほぼ業務をこなせるまでになってきており順調な成長がみられている。職員会議、処遇会議、園内研修や部署内研修、又その時々で、技術・知識を共有し、お互いの向上を図っていきたい。又、高齢化に伴い、重度のゲストも増えている。ケアにあたっては大慈園マニュアルに沿って統一されたケアを徹底する。医務、栄養科、関連機関との連携を更に強化し、ミスがないよう、迅速に対応していきたい。

5. 《栄養科》

<目標>

①ゲストから多くの「おいしい」の言葉を聞くことができる。

A) 調理給食会議での献立確認の際は、盛り付けがよく見える方法を検討する

B) 『職員・利用者アンケート』の満足度を100%にする。

→アンケート結果は、昨年度より満足度は10%低下しており、目標達成できていない。食器洗浄の不十分については厨房では弥勒園と同対応をとってきたが、老朽化による落ちない汚れが目立ってきており、自立した方が多い吉祥園では満足度は減少した原因にもなっていると考える。又、見た目、味については、調理師の引き継ぎがスムーズにいかず課題が残る。

②誤嚥予防の知識を深め、事故防止に努める。

A) 食事に関わる職員全員が食事内容を理解し、給食会議を通して再確認する。

→当初の計画通り、給食会議では現状気になるゲストを毎月挙げて、現状と今後の対応を確認することで誤嚥事故防止に努めた。月1回給食委員会で勉強会を実施し委員の中では咀嚼嚥下のメカニズム等は確認できたが、部署全体の周知については来年度の課題である。

③新体制にむけてタイムテーブルを新しく作る。

A) 月1回委託業者と会議を行い、一年で作成する。

B) ケアハウス栄養科と連携して業務の効率化を図る。計画案作成にあたり試験的に実施する際は関連業者・部署の理解、協力を得る。

→弥勒園と同文。

<月間行事>

スナック狸を月2回から1回、お好み焼きの日を月2回から1回に変更。又、料理部の活動が停滞しているが、今年度は花見や祭りでは手づくり感ある計画を立て実施した。来年度は定期的実施する新しい楽しみ、試みも必要であり、月1回昼食時に行う行事を計画している。他月間行事は計画通り実施した。

<年間行事食>

※略語の説明→吉（吉祥園）

月	行事	内容
4月	お花見	お花見弁当。館内で桜をいけて会場の中で、目の前で調理師が串揚げ、介護士がおにぎりを握るなど手作りのお花見会を実施した。
5月	子供の日	巻き寿司をメインに特別食を提供した。
	母の日	特別食を提供した。
6月	父の日	特別食を提供した。
7月	七夕	特別食を提供した。
8月	地藏盆	地域交流の一環にて、園庭で職員が地域の方を接客し露店を実施した。
9月	敬老の日	特別食を提供した。
10月	秋祭り	園庭で昼食後に露店販売を行った。
12月	クリスマス会	オードブルでローストチキンをメインに提供した。
	年越しそば	大晦日夕食時に、年越しそばを提供した。
1月	元旦	昼食→1日はおせち料理、3日までは正月料理とした。
	餅つき	間食でもちつきを実施し、参加者にその場で提供した。
	新年会	特別食を提供した。
2月	節分	昼食は巻きずし、夕食は鰯をメインにした特別食を提供した。
3月	ひな祭り	菱寿司をメインに、雛あられを添えて提供した。

6. 《理学療法科》

＜実践目標＞

①個別対応（トレーニングメニューの作成・指導）

A) 必要に応じた個別トレーニング（日常生活リハ）指導…随時

B) 物理療法（電気治療）による緩和ケア…週4回

②精神的ケアのフォロー

A) 訪室によるコミュニケーション…月2回

→個別対応に関しては、リハビリ対象者には適切な指導・実施は図れているが、居室にての日常生活リハに関しての指導は殆ど実施出来ていない状況である。精神的ケアに関しても同様に訪室機会が少なくコミュニケーション不足にて手付かずの状況であり、何らかのアプローチをとる事が今後の課題でもある。

＜まとめ＞

実践目標に関して、全体的にはほぼ施行出来たと思えるが、前年度からの課題であった精神的な緩和ケアに対しては、今年度においても殆ど手付かずであった事が反省材料である。その部分に時間を取る余裕が今のところなく、訪室機会が作れない事が原因として考えられる。今後は少しでもコミュニケーション時間を設け、何らかのアプローチをかけて行きたいと考えている。又、施設全体的に日常生活レベルが低下傾向に見受けられる為、来年度は特に、日常生活リハの指示・指導に力を入れていく事で、現状の低下傾向を防止しリスク減少にも反映して行きたいと考えている。

＜業務実績＞・・・大慈弥勒園に記載。

7. 《看護部》

＜目標＞

①健康管理

A) 年2回の定期健診を行う。

→年2回の定期健診をし、栄養指導や生活指導の実施ができた。

8. 《行事・クラブ活動等の取り組み》

＜クラブ活動実績＞

脳を鍛える	不定期(月1回)	10名	職員	テーブルカラオケ	随時	10名	職員
シルバー体操	月4回(水曜日)	40名	村越先生	料理	年4回	10名	職員
華道	月2回(隔週)	15名	段先生	詩吟	月1回	10名	職員
絵手紙	月1回	10名	シルバーカレッジ	ニコニコツアー	随時	3名	職員
書道	月1回	15名	シルバーカレッジ	体操	随時	10名	職員
コスメ	月1回	10名	職員	麻雀	不定期	6名	職員
ビデオ鑑賞会	月1回	10名	職員	創作	随時	5名	職員

＜各クラブの活動の反省＞

①シルバー体操（月4回）

→頭と体を動かし活動量アップを目指しているが段々参加される方が減少気味である。1・3Fへの積極的な声掛け、誘導に至っていない。予防介護をも踏まえ要支援、非該当の方にも積極的な参加を募っていききたい。

②華道（月2回）外部の講師

→時間を掛けて真剣に活かされている。ご自分で活かしたお花は可愛いのか度々見に行かれたり、水の交換をされている。見守りと支援が必要ではあるが認知症の方にもやって頂きたいと考えている。

③絵手紙（月1回）外部講師

→自立の方から認知症の方まで幅広く参加頂いている。数多く準備し席を埋めるように声掛けしている。廊下の壁に展示している事が励みになっていると思われる。20名目標とする。

④職員によるクラブ

→外部講師の迎えてのクラブは実施できた。コスメ、料理クラブ、大正琴、ニコニコツアー（介助者向け買物ツアー）ビデオ鑑賞会等、職員不足の期間あり一時期実施することが出来なかった。来期よりフリー職員を配置できる日もあり、行事に組み込みする予定である。

<行事>

月日	行事名	毎月の行事
4月	お花見(園庭)	誕生者会食
5月	母の日お祝い会	スナックたぬき(第2・4木曜日)
	プチ旅行	お好み焼(第2・4日曜日)
6月	外食ツアー(回転寿司)	健康チェック(体重・血圧測定)(月末)
	父の日お祝い会	コーヒー喫茶(毎木曜日)
7月	7日	七夕
8月	1	精霊流し
	23日	夏祭り(地藏盆) 夏祭り(吉祥園)
9月		つぐみ保育園慰問
		敬老の日お祝い会
		彼岸法要
10月		大慈園秋祭り
11月		にこにこ保育園交流会招待
12月		つぐみ保育園慰問
		クリスマス会
		おやつ作り(餅つき)
	3日	初詣(諏訪神社)
		書初め
		新年会
2月	3日	節分
		喜寿米寿お祝い会
3月	3日	ひな祭り
		彼岸法要
		ボーイスカウト慰問

お花見（4月9日）

→桜の花を見ながら、職員手作りの昼食を食べて頂く。栄養科、厨房の協力を得、揚げたての串揚げを召し上がって頂く。おやつはゲストにもお祝いし、抹茶をたて和菓子を提供し喜んで頂いた。

母の日お祝い会 (5月10日)

→カーネーションとプレゼント贈呈。職員を含め、ゲストの母の思い出を語って頂く。涙されるゲストもおられた。希望者桜の前で写真撮影。

プチ旅行 (5月)

①コウノトリの里 (6名)

→募集時のポスターと内容が変わったことを事前にお知らせ出来ていなかった事、下調べの甘さ等があった。ゲストも遠出することを喜んでおられたが身体的には疲れが出た様子。一時間ほどの距離が限界と思われる。

②観劇 (4名)

→としやで昼食後、観劇を見られる。終了後記念撮影。昼食を含め喜んで頂けた。

③イチゴ狩り (6名+園待機ゲスト4名)

→真っ赤なイチゴを探しながら沢山食べられる。昼食はお寿司を購入し園で待機されているゲストと一緒に頂く。楽しい時間を過ごされる。

④須磨水族館 (4名)

→館内広く休み休み歩く。1名の方が迷われたり、体調不良おこされる。イルカショーは大変喜ばれていた。

⑤カラオケ (5名)

→当日キャンセルされるゲストあり。気兼ねなしに何曲も歌われる。昼食は大蔵海岸で懐石料理を頂く。大変喜んで頂けた。

☆その他プチ旅行に参加されなかったゲストの食事会をディルームにて行う。

外食 (寿司) ツアー(6月)

→大勢のゲストが行かれる為、4回に分けて行く。比較的仲の良いグループに分けたこともあり、会話も弾み楽しい時間を過ごして頂く。普段食事量の少ないゲストも沢山食べられた。

父の日会 (6月)

→母の日と同様のプレゼント用意。

七夕 (7月)

→ゲストに竹2本分の飾りを作って頂く。短冊に思い思いの願い事を書かれ普段より沢山話をされていた。職員の出し物は紙芝居を披露、自転車で登場する。昔のおもちゃで遊んで頂いたが懐かしいこともあり子供に帰ったように無邪気に遊ばれていた。

神戸花火大会 (8月) 5名

→ゆっくり見れて良かったとの声あり。夜空に花火が舞う度に歓喜の声有り。

夏祭り(8月12日)全員参加

→2階ホールで行う。職員の手作りの食事を召し上がって頂く。美味しかったと好評。

盆供養 (8月13日~15日)

→風があり、お地蔵さんの所まで行くのに危なかったが他部署と協力、声を掛け合って誘導行う。事故なく無事に終了。迎え火より送り火の方に多数参加される。

つぐみ保育園交流会 (9月10日)

→園児に太鼓や歌を披露される。子供たちを見る目は孫を見ているように嬉しそうであり、涙される方も多し。子供たちとのふれあいは本当に笑顔が絶えない。

敬老お祝い会 (9月16日)

→喜寿・米寿のお祝いを兼ねる。職員出し物は漫才を披露する。練習を重ねたこともあり、笑いを沢山頂いた。その他ビンゴゲームを行ったがプレゼントの渡し方がスムーズではなかった。

彼岸法要 (9月20日)

→滞りなく終了

秋祭り（楽しんでくだ祭）（11月21日）

→二階ではエイサー太鼓・和琴を披露する。2ヶ月近く練習したこともあり、喜んで頂けたと思う。露店の食べ物が思うようにゲストに運ばれなく、テーブルに多量残すことになる。

来年への反省点である。ボランティアの数が多かったこともあり、バタバタした印象残る。

つぐみ保育園慰問（12月）

→とても完成度の高い演技にゲストからは拍手喝采であった。子供たちが来てくれるだけでリハビリになっている。終了後も子供たちと話をされていた。楽しみな行事の一つになっている。

クリスマス会（12月23日）

→職員とゲストでクリスマスソングを共にうまく歌うことができた。衣装を着ていたので、雰囲気は出せた。飾りつけに時間が掛かりバタバタ感があった。ビンゴゲームは頭を使う為、良いリハビリになり大きな刺激にもなる。食事は美味しかったが主食のパンが硬かった。

諏訪神社初詣（1月2日）

→元旦はお風呂なども業務は一切なく、唯一ゲストとふれあい一緒に遊べる日である。2日は諏訪神社に初詣。希望者を募り2台で2便出した。（湊川神社への初詣は自立されている方の人数も減り、人混みの中での事故のリスク高い為、中止となる。）車椅子のゲストを含め20名以上の方が参加される。真剣に拝まれていた。お神酒を頂き記念撮影をする。普段の書道とは別に書初めには多数のゲストが参加されている。

餅つき大会（1月13日）

→各階の職員による出し物とそれぞれ餅をつく。それぞれの階のゲストから大きな応援を頂く。多くのゲストが餅つきを見学される。餅を丸めるのはゲストにお手伝い願った。楽しいひと時になったと思われる。「よく頑張った」と労いの言葉頂く。

新年会（1月15日）

→今回は男性職員が主になって行った。出し物では笑点を真似て行ったがネタは吉祥園用アレンジする。沢山笑いを頂いた。食事は一人用ちゃんこ鍋をご用意した。

節分（2月3日）

→2階フロアにBGMを流す。今年は昔ゲストが豆を炒って節分を迎えるように実際に炒って懐かしさを感じて頂いた。鬼登場で豆まき開始。撒く豆は玉入れの玉を使用。最初は少し盛り上がり欠けたが、鬼が各テーブルに現れてから楽しく盛り上がった。

ひな祭り（3月3日）

→例年通りゲストにお手伝いいただき雛人形を飾った。昔話をしながら飾りつけを行う。

*喜寿・米寿は本年度該当者なく、中止している。

<行事総括>

大きい行事に関しては計画を練り職員総体制で望み、練習を積みゲストに楽しんで頂けたと思われる。又、良かったとの声は次への励みに繋がった。たまにバタバタすることもあり、もう少し早く計画、準備をしていれば・・・と反省することもあった。職員の体制も整ったこともあり、次年度は早い計画・準備をし、ゲストに楽しんで頂けるようがんばって行きたい。

9. <会議の実施状況>

- ①職員会議→・行事の振り返りと反省、翌月の行事の取り組みについて。
 ・其々の委員会の報告、吉祥園各係りより結果報告と提案
 ・急を要する事例について

・ミニ研修等

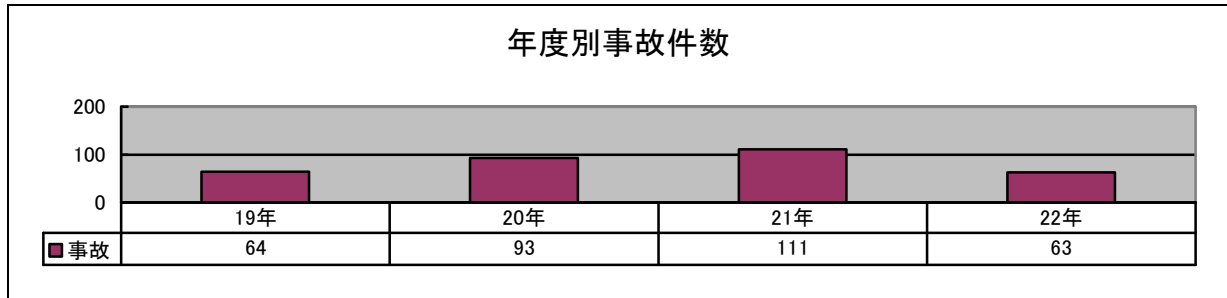
②処遇会議→・ドキドキ報告書・事故報告書・苦情・相談報告書など元に再発防止策を検討
・担当ゲストのアセスメントを行っている。

- 10. ≪会議の実施内容・反省点≫
 - 11. ≪職員会議等・OFF-JT≫
- } 弥勒園同様

12. ≪リスクマネジメント報告≫

○年度別事故件数

→要介護者の発生と共に、増加傾向であったが今年度約半数近く減少した。



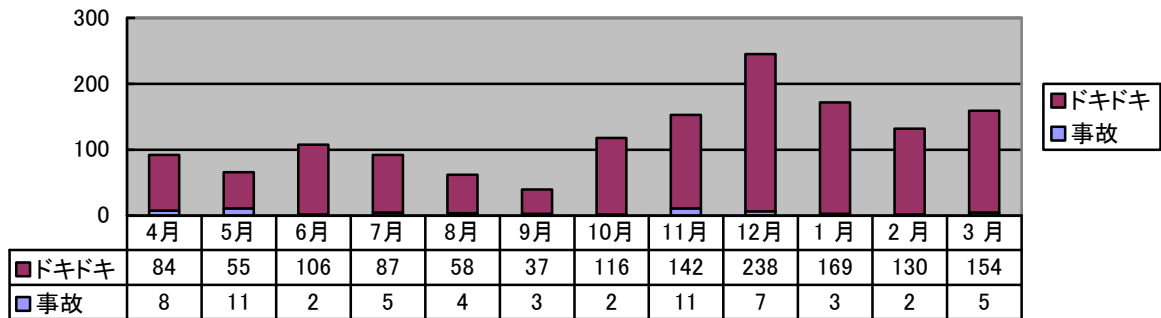
☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①22年度報告件数・・・1439件（事故63件、ドキドキ1,376件）

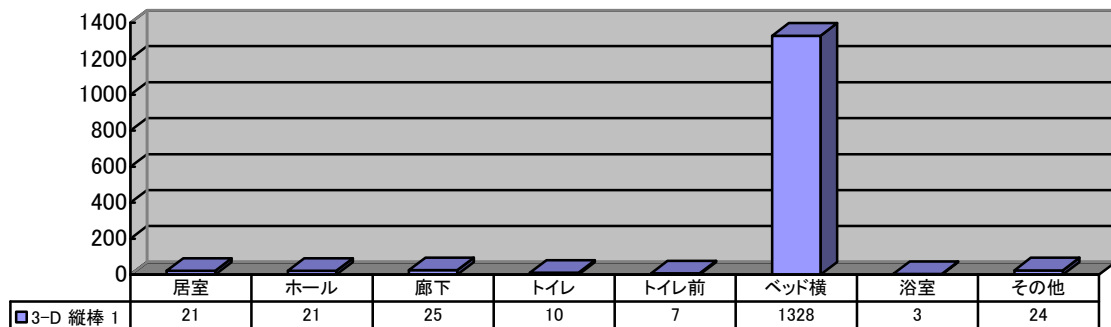
前年度1784件（事故111件、ドキドキ1673件）

・前年度に比べ345件減少。

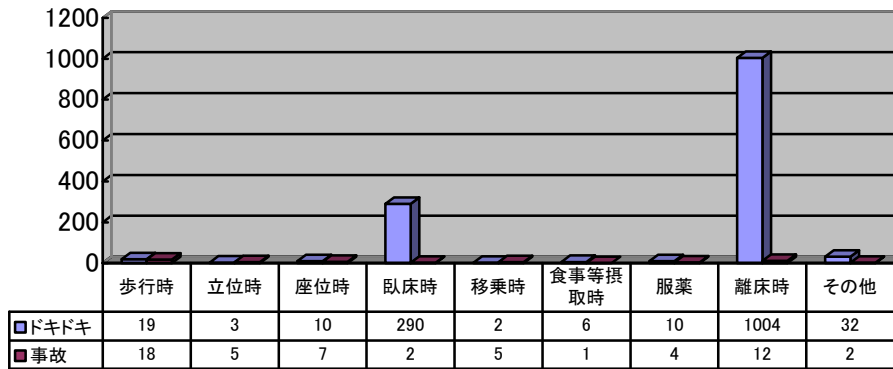
○ドキドキ・事故件数



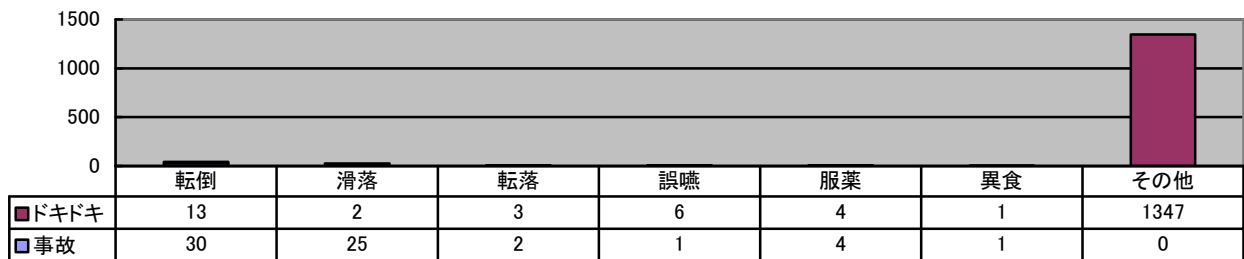
②発生場所別件数



③発生状況別件数



④発生内容別件数（事故）

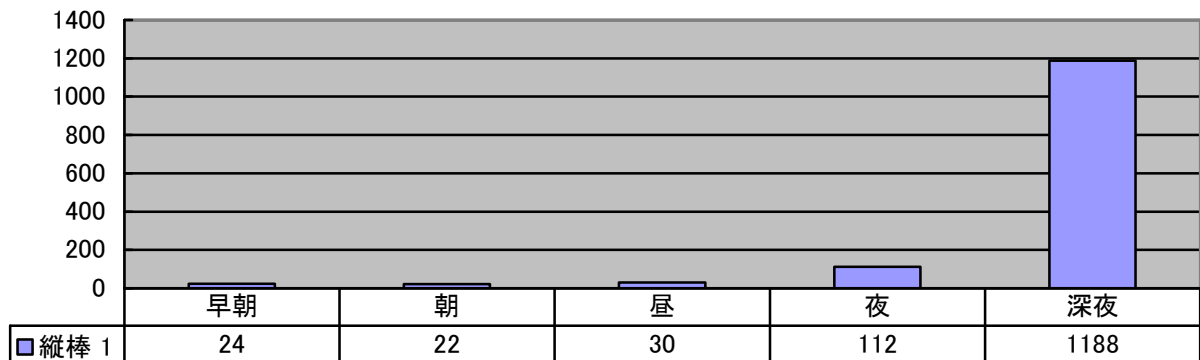


⑤時間帯別件数

早朝 4 : 00～6 : 59	朝 7 : 00～11 : 59	昼 12 : 00～16 : 59
夜 17 : 00～22 : 59	深夜 : 23 : 00～3 : 59	

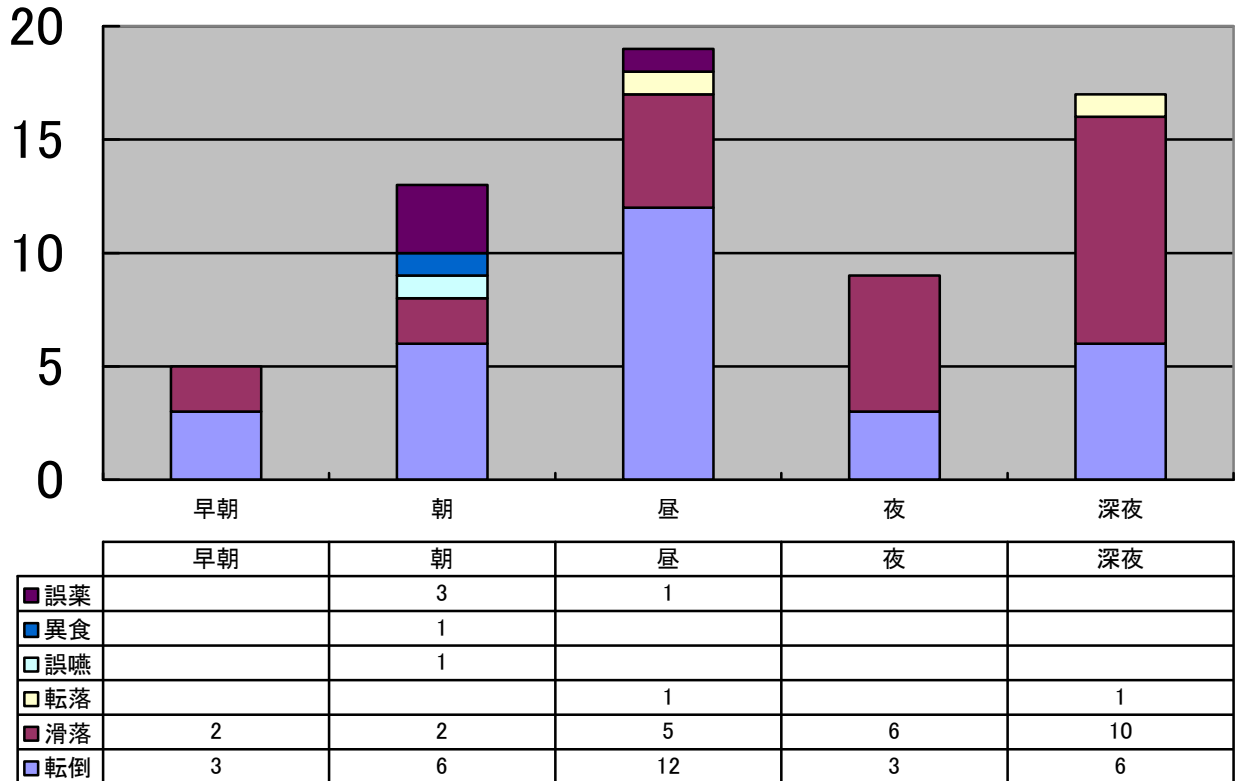
○ドキドキの時間帯

→深夜の離床センサーが圧倒的に多い、センサーのおかげで事故回避に努めた、事故がこれだけ潜んでいたともいえる。



○事故の時間帯

→転倒のリスクは特に昼にあることがよくわかる、また転倒滑落事故は四六時中発生している。



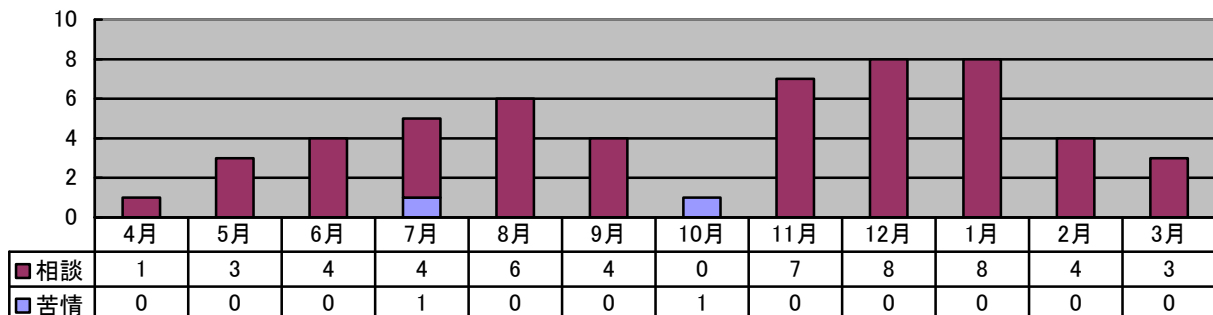
⑥まとめ

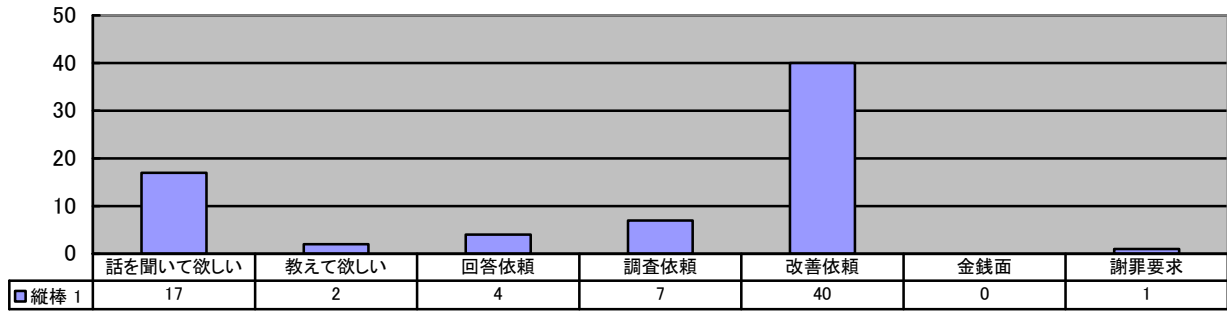
→事故の起こっている場所のデーターを見ると圧倒的にベッド横が多く、次にトイレ付近となっている。夜間帯0時～4時は職員が一人対応しており、リスクが高く更なる注意が必要である。一部介助のゲストで見守りを強化するという対策の効果なく、「できるから大丈夫かな？」と目を離れた時などのリスクが高くなっている。職員の過大意識を変えていく必要あり。成功した事故対策としては入浴時の見守り介助者の事故が続いた為、介助の必要なゲストの入浴時間の見直し、組み合わせ等変更し、グループ別のゆとりのある入浴を実施したことである。それにより、見守りの必要なゲストにはきっちり見守り出来、全介助のゲストにはマンツーマンで介助にあたるようになった。次年度は予想されるリスクに対して事前に検討、対応できるように職員の意識をあげていきたいと考える。

13. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・54件 (内苦情2件)





※複数回答しているため件数が多い。

○主な内容

- ・ゲスト間の相談（27件）
- ・職員に対して（20件）
- ・建物、備品（4件）
- ・園に対して（2件）
- ・その他（3件）

○まとめ

→ゲスト間での相談は日頃より仲の悪い方への相談事項が多かったが、相性が悪いというのはゲスト間では改善しにくく、職員が間に入っても思いは中々変えられない。食事席や居室を替えたりしゲストの直接の接点がないようにするのが殆どである。統計を取るに当たり、思った以上に職員への相談事項が多かった。職員への相談がある度に個別に対処しているが、この統計を踏まえ全職員で話し合い、意識を変えていかなければ職員への相談事項は今後も続くと思われる。職員にとって、職員への相談は嫌なものではあると思われるが、些細なことでゲストからの思いを数多く拾い上げ、ゲストと良い関係を築けるものとしていきたい。

14. 《総括》

今年度は、退職者、育休、傷病などで職員の配置が難しい時期があったが協力しあいながら何とか乗り切ることができた。職員の補充と復帰により、徐々にではあるが、体制が整ってきている。ゲストのニーズに近寄りつつ個別ケアを目指していきたいと考える。全体的に経験の浅い職員が多い為、各研修への参加、部署内研修等を行いながら技術の向上と知識の習得に力を入れていきたい。又、職員が比較的控えめである為、ゲストとのコミュニケーション、他部署との交流などにも力を入れたいと考える。部署内研修では特に非言語的コミュニケーションのテクニック、認知症高齢者への理解と支援等を主に会議等を利用して一年を通して行う予定である。排泄、入浴、給食、レク等が活動した成果が出てきている。更に完成度を高め、ゲストの変化に柔軟に対応できるように職員全員のレベルアップを目指していきたい。